

日本女子体育大学附属二階堂高等学校

第七十三回 卒業証書授与式

式 辞

新型コロナウイルスによるパンデミックは、これまでの日常を根底から覆し、社会の在り方や、仕組みまでも変え、大きな影響を及ぼしています。

しかも、この見えないウイルスとの戦いは、長期にわたり、誰もが大きな不安を抱え、従来の教育活動には取組めない、不自由で、不便な学校生活を強いられてきました。

しかし、本校は前年度の教訓を生かし、感染防止を優先すると共に、守るべき行動規制を徹底し、「教育を継続させるためには、何が必要なのかを模索し、優先すべき事は何か」を試行錯誤しながら、今に至っています。

皆さんにとっても、2年以上に及ぶ、厳しい環境の中で、自分自身を見失うことなく、進路を見据えた日常は、試練の連続だったと思います。

それでも、時は流れ、季節は変わり、希望に満ちた、春の訪れを実感できる 時期となりました。

本日は、本校第七十三回卒業証書授与式にあたり、公私ご多用の中、保護者の皆様のご列席を賜り、式が挙行できますことに、教職員を代表し、心から感謝申し上げます。

さて、卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。そして、保護者の皆様にも、心より、ご祝辞を申し上げます。皆さんは、本日をもって、義務教育に、3年間の中等教育を積み上げた、12年間の学校教育が修了となる、大きな節目を迎えました。

卒業生と私の、初めての関わりは、入学後に千葉県で実施された、新入生研修でした。緊張した雰囲気の中、礼儀正しく、講話に傾聴し、常に、前向きな言動は立派で、本校の新たな流れを創造し、大いに活躍してくれそうな予感と、期待感を抱いたことが、記憶に残っています。

あれから、今日に至るまで、学習や諸活動に大きな成果を挙げ、校訓である「勤労」「感謝」「礼節」のもと、よき伝統と、女子高としての、凛とした校風を引き継ぎ、本校の歴史に、新しい一ページを書き加えました。

特に、日々の授業においては、各コースに特化した、知識と技能を関連づけ、「深い学び」を追求したことは、言うまでもありません。「確かな学力の定着」により、豊かな知識を身に付け、解けなかった問題にも挑戦し、正解にたどり着くようになりました。

「不得意で苦手」から「得意で、もっと学びたい」に変容した教科が、増えたことで、物事の見方や、考え方に幅ができ、卒業後の進路選択にも、影響を及ぼすことになったのではないのでしょうか。

そして、この学び舎は、多くの葛藤を乗り越え、人としての心を育み、社会性を身に付ける場所でもありました。

さまざまな規制が日常的に続き、活躍の機会が、極端に少なかったこの一年でしたが、縮小された学校行事や、生徒会活動においては、常に下級生に範を示し、学校生活の質を高め、発展させたことは、高く評価します。

部活動を振り返ると、ダンス部は全国制覇を成し遂げ、文部科学大臣賞を受賞。新体操部も、全国高等学校、新体操選抜大会において優勝するなど、輝かしい実績を残したことは、称賛に値し、本校の名誉でもあります。「保護者と教師の会」から寄贈された横断幕は、通用門付近に掲げられ、通るたびに誇らしい気持ちになるのは、私だけではないと思います。

また、この3年間は、自己実現を図るための「学び」や「気づき」、そして、誰もが認める「成長」が繰り返されてきた期間でもあります。

挨拶の励行や、他者への思いやり。言葉による謝意の伝え方や、規範意識など、人としての生き方も、身につけることができたはずです。

さらには、日常的な集団生活の中で、自分の立場や、人に迷惑をかけない生き方を意識し、良好な人間関係を構築すると共に、コミュニケーション能力を磨き、社会性を培って来ました。

本校での生活は、これからの人生に大きな影響を及ぼし、いずれ役に立つ時が必ず来ると確信しています。

今後は、人としてのやさしさや、価値観を共有し、主体的な生き方はもとより、何事にも果敢に挑戦し、次世代の担い手として、立ち向かう姿勢も、強く求められます。

そこで、皆さんの卒業の門出にあたり、京セラやKDDIを創業し、経営破綻した日本航空を、短期間で再建した、稲盛和夫さんの著書からの引用、「物事を成し遂げるための、強い、思い。」についての話を贈ります。

「実現の射程内に、呼び寄せられるのは、自分の心が求めたものだけであり、まず思わなければ、叶うはずのことも、かなわない。」

「その人の、心の持ち方や、求めるものが、そのまま、その人の人生を、形づくってい

くのであり、事をなそうと思ったら、まず、こうありたい。こうあるべきだと、思うことである。」

「それも誰よりも強く、身を焦がすほどの熱意を持って、そうありたいと願望することが、何より大切である。すべての始まりは、強い思いからである。」と書いています。

高校を卒業し、「自立」していく皆さんに、まず、求められることは、今の強い思いを、具体的なビジョンに置き換えることです。目的は何か、自分はどこを目指すのか。そして、何に全力で向き合うべきなのかを、しっかりと自覚して、取り組むことが大切です。

これからが、長い人生における勝負の時期と考え、自分の進むべき方向性を、見極めてください。

皆さんは、本日をもって、中等教育の全過程を修了します。教育の本来の姿は、動物の親が子を育てることに、共通する部分があると言われていています。

親が子を育てるのは、子が、自力で獲物をとることができるまでとし、その後は、巣に戻ってくる事すら許さない。つまり「自立」した後は、どのように生きるかについて、親は関与しない。と言うのが厳しい動物の世界です。

勿論、私達は動物とは違いますが、高校を卒業するとは、社会的・経済的・そして精神的な、「自立」が問われる環境の中に、身を置くことに繋がります。

それは、継続的な成長を繰り返し、やがて社会の一員として、人々と共に地域を支え、貢献する大人に成長するために、必要な環境でもあります。

また、一人一人がたくましく生きる力を育み、広い視点に立ち、グローバルに活躍することも、期待されています。

そこで重要なのは、AI、人工知能との共存や、持続可能な社会への参画・価値観の多様化など、自らの存在感を示し、自己研鑽に努めることです。

そして、夢や希望の実現に向け、邁進する皆さんの未来が、光輝き、素晴らしい人生になることを、願ってやみません。

結びに、本日、ご臨席賜りました、保護者の皆様には、すでにご承知の通り、四月からの民法改正に伴い、法的には成人年齢に達していく卒業生ではありますが、引き続き、温かく見守り、お導きください。

また、本校にも、今までと変わらぬご厚情と、ご支援を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

本日は、誠におめでとうございます。

令和4年3月5日

日本女子体育大学附属二階堂高等学校

校長 工藤 公彦